

過去、現在、そして未来の私



日々の生活は、直面する仕事に取り組むだけで精一杯。矛盾や問題にぶつかった時に、どう考えを整理したらいいのか…？仕事の経験年数が浅い若者世代には、悩みや迷いがたくさんあるでしょう。

年頭に当たり、フレッシュな若い世代に「過去、現在そして未来の私」について、フリートークしてもらいました。

テーマを決めて3分間スピーチにチャレンジ



熊取学童保育所
指導員 労働
新藤 剛さん

就職して4年目です。職場では先輩が、「わからないことは聞いてや」と言葉をかけてくれますが、僕のように仕事の経験が浅い何をどう質問すればいいのか…？と考え込んでしまっています。

そこで、組合の会議ではテーマをひとつ決めて3分間スピーチをしてみることに…。今、賃金規程をつくるにあたって、「文化的な生活ができる賃金っていくらか？」をみんなで話し合っています。そのテーマで話すうちに、日頃、悩んでいることや疑問に思っていることを少しずつさせるようになってきました。



「次世代を担う」責任をもって

守口市職労青年部副部長
柳楽 英俊さん

就職して下水に配属され5年目。大学で学んだ土木の専門とは違った仕事で、「はじめての経験」が今もあります。職員配置は削減されていますが、自分の仕事と全体的な行政の関わりが分かるような上司との関係で、職場環境は恵まれています。市役所で働く職員だから、3・11の震災の実態をみて、もし、大阪でも地震があればどうなるのか？自分の仕事としてできることは何か…を考えてみることもありました。

先輩が退職し、僕たちの世代が次の時代の行政を中心的になって担う時期がくれば、力が発揮できるように仕事に責任を持っていきたいと思っています。

青年部は再建3年目。みんなでいろんな企画をし、集まって楽しんでいます。

学んだこと

もっとうまく伝えたい

羽曳野市職労
吉松 馨さん

保育士で就職11年目。成長を見守りながら日々生活の中で子どもたちとの関係を築けることが生きがいです。仕事や学習会で学んだことを伝えたいと思うけれど、うまく伝えられているだけなので、うまく伝えられないことがもどかしいです。組合では、同世代の人とのつながりができ、企画できることや仕事でもプライベートでも相談できることが楽しみです。

自分になにができるか

さぐりたい

羽曳野市職労 岡部 由紀さん

就職10年目。子どもたちの成長を近くで見ることができなのが保育士としての働きがい。組合に入ってからよかったことは、ちがう園の同世代の人と話ができることや、楽しい企画と一緒に考え参加できること。去年3・11の震災があり、テレビの報道で節電ぐらいじゃないとあかんなかなあ…など、何かしたいと思いましたが、今まで通りにしか生活できません。1人では何もできないなあと思います。けれど、そんな思いは持ちつつ、何ができるかを探っていきたいと思っています。

「腹わって話し合える」仲間がいるっていいね！

羽曳野市職労 松本 裕子さん

保育士で就職して4年目。子どもが成長していく姿が近くでみれて、子どもたちや保護者と一緒に喜びあえることが働きがいです。学習会にいくことも、知らないことが多すぎて結局何も残るものないことが多いのですが、中之島公会堂での2条例撤回の集会での寸劇は、わかったことだけでも伝えたくて、家族や旦那にしゃべりました。組合の会議では、職場での悩みなどを腹をわって話しあえることがいいです。

「真実が隠されている現実」を学ぶ

羽曳野市職労
森本 美有希さん



採用4年目。組合の先輩からは仕事や労働条件などを教えてもらっています。今までは、マスコミでの情報を鵜呑みにしていたけど、「真実がわざと隠されている」こともある、ということを勤労協の学習会で知りました。青年部では、年の近い者同士で似たような悩みを話せるし、たくさんの仲間ができて心強いし、楽しいです。

「公務員は全体の奉仕者」橋下独裁を止めよう！

1月5日 大阪自治労連旗開き



センチュリー交響楽団の美しい調べに魅了されました

1月5日18時30分、センチュリー交響楽団の弦楽四重奏で大阪自治労連新春旗開きの幕が開きました。

まず、年頭に当たって前田委員長が「昨年は3・11の震災が、経済優先か、いのち・くらし優先かという

問いを私たちに突きつけてきました。また、年末に就任した橋下大阪市長は、『労働組合は庁舎内から出て行け』という不当な攻撃や『労働組合の政治活動の制限』など組合に対する宣戦布告をしており、府下の自治体、さらに全国にも影響及ぼしかねない問題となっています。大阪自治労連は、正々堂々とたたかうことを表明するとともに、それぞれの持ち場で団結と連帯を強めて奮闘しましょう」と挨拶しました。



「自治体労働者に『市長の奉仕者となれ』と強要する橋下市長とたたかおう」と、あいさつする前田委員長

来賓からは、大阪労連弁護士から城塚弁護士、日航争議団と前進座からの訴えや単組の決意表明があり、荒田書記長の団結ガンバロウで締めくくりました。

今月のキーワード

十二支のひとつである辰

通常十二支のなかで第5番目に数えられます。「漢書律曆志」によると「振(しん:ふるう)」「ととのう」の意味)で、草木の形が整った状態を表しているとされます。後に、覚えやすくするために神話上の動物である龍が割り当てられました。西暦年を12で割って8が余る年が辰の年となります。ちなみに、「辰の刻」とは午前8時を中心とする約2時間です。

今月のキーワード

矛盾

故事成語で「どんな盾も突く抜く矛」と「どんな矛も防ぐ盾」を売っていたという楚の男が、客に「その矛でその盾を突いたらどうなる」と問われ、答えられなかったという話から、物事の道筋や道理が合わないことをいいます。自分の思考の中での矛盾(自己矛盾)が生じるのは、成長の証だともいわれます。